

平成27年度  
第8回 野津原中学校区適正配置地域協議会

日時：平成27年7月23日（木）

19:00～

場所：野津原市民センター大会議室

I 開会のことば

II 会長あいさつ

III 議事

1 第7回地域協議会で残された課題について

2 野津原地区全体の学校教育について

3 統合の時期・方法について

4 その他

IV 閉会のことば

#### IV 議事

##### 1 第7回地域協議会で残された課題について

(1) 野津原地域における児童育成クラブの方針等について

(2) 碩田中学校区のパンフレットについて

##### 2 野津原地区全体の学校教育について

(1) 協議

##### 3 統合の時期・方法について

(1) 統合の時期

- ・平成29年4月統合
- ・平成30年4月統合

(2) 統合の方法

(3) 協議

##### 4 その他

(1) 第9回地域協議会の開催について

8月27日(木) 19:00～

- ・地域協議会としての要望について

## 野津原中学校区適正配置地域協議会の協議スケジュール

年度	開催期間	協議事項	配付資料等
25	第1回 準備会 6. 5(水)	・大分市立小中学校適正配置基本計画について	6.5 大分市立小中学校適正配置基本計画(抜粋)
	第2回 準備会 7.23(火)	・地域協議会規約について ・今後の日程について	9.25, 10.4, 10.18 3小学校区説明会
	第3回 準備会 10.31(木)	・3小学校区の説明会について ・地域協議会の組織(構成員)について	
26	第1回 5.21(水)	・地域協議会規約(案)について ・地域協議会について	・基本方針(抜粋) ・児童生徒数、学級数の推移
	第2回 7.31(木)	・スケジュール等について ・今後の協議内容について①	・野津原中学校区説明会の 質疑の要点整理
	第3回 10. 2(木)	・統合について ・今後の協議内容について②	
	第4回 11.27(木)	・今後予想される日程(案)について① ・統合に伴う通学支援について①	・通学に係る調査結果 ・通学に係る基本的な考え方
	第5回 2. 5(木)	・今後予想される日程(案)について② ・統合に伴う通学支援について②	1.14 野津原東部小協議 1.15 野津原中部小協議 3. 3 野津原西部小協議
27	第6回 4.30(木)	・統合に伴う通学支援について③ ・H27年度の取り組みについて	・通学支援の基本方針 ・H27協議スケジュール案
	第7回 6. 4(木)	・地域とのかかわりについて ・野津原地区全体の学校教育について①	・地域協議会規約、たより ・児童生徒数、学級数の推移
	第8回 7.23(木)	・野津原地区全体の学校教育について② ・統合の時期・方法について	・碩田中学校区のパンフレット
	第9回 8.27(木)	・地域協議会としての要望について	
	第10回 10.15(木)	・協議の取りまとめについて ・報告書(案)について	
	第11回 11.12(木)	・報告書(案)について	

第8回 野津原中学校区適正配置地域協議会

# 資 料 集

## 野津原地域における児童育成クラブの方針等について

### ■児童育成クラブの基本的な考え方（市全体）

平成 27 年度から子ども・子育て支援新制度（以下、「新制度」という。）が施行されたことに伴い、事業の対象児童が小学 6 年生までに拡大されると共に、児童育成クラブの施設について面積基準（利用児童 1 人あたり概ね 1.65 m<sup>2</sup>以上）が設けられることとなった。

新制度では、自治体が事業の量の見込みに応じた事業計画を策定し、提供体制の充実を図ることとされており、平成 27 年 2 月に策定した「すくすく大分っ子プラン」において、量の見込みに対して現有施設で対応が困難である校区については、施設整備等により提供体制の充実を図ることとしている。（H31 までに 34 校区 770 人分の提供体制の拡充を計画）

なお、5 か年計画の中間年である H29 において計画の見直しを予定している。

### ■野津原地域における児童育成クラブの方針

児童育成クラブは、放課後における児童の安全確保の観点から学校敷地内の設置を原則としており、小学校統合と併せて児童育成クラブについても東部校区への統合を基本的な方針としている。H25 に行ったニーズ調査をもとに昨年度全市的にとりまとめた結果、H29～31 の野津原地域における児童育成クラブ利用児童数は、高学年児童も含めて 28 人程度で推移すると見込まれていることから、現有施設で対応可能と判断いたしたところです。

平成 27 年度現在の登録児童数は、東部校区 34 人、中部校区 23 人と、両校区ともクラブ開設以来最も児童数が多い状況となっているが、4 年生以上の高学年児童が多く在籍していることが大きな要因となっている。こうした児童は、H29～30 年において小学校卒業等によりクラブ利用対象から外れてくることから、野津原地域内の小学生の児童数及び児童育成クラブの利用児童数の推移を勘案しながら、必要に応じた提供体制を確保していきたいと考えている。

※本市の児童育成クラブの平均出席率が 8 割強であることから、現在の野津原東部校区児童育成クラブ室（床面積 48.6 m<sup>2</sup>）での適切な受入れ児童数は、35 人程度となる。

【担当：子育て支援課】

### 3 統合の時期・方法について

第6回野津原中学校校区適正配置地域協議会 (H27.4.30)で提案した資料です。

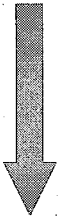
#### ◎ 予想される日程(案)について

地域協議会の協議 (H26年度～H27年度)



① 地域協議会における合意形成を行い、報告書を取りまとめ、教育委員会に提出  
(27年度・中期頃)

- 統合の時期・方法について
- 統合に伴う通学支援について
- 地域との関係について など



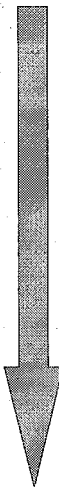
② 教育委員会が「野津原中学校校区適正配置実施計画」を策定 (27年度中)



③ 統合・閉校に係る協議 (28年度) 又は (28年度～29年度)  
統合準備委員会、実行委員会等を組織して協議

- 統合に係る協議 (統合準備委員会)  
学校運営に係る内容  
通学に係る内容  
(状況に応じて学校名、校章、校歌などの検討) など

- 閉校に係る協議 (実行委員会)  
閉校記念事業の検討・決定  
学校施設の活用に係る協議  
・小学校区ごとに協議(統合後も継続する可能性)



④ 3小学校の統合完了 (29年度) 又は (30年度)

#### 4 その他

これまでの協議をもとに、考えられる地域協議会としての要望事項をまとめてみました。

- 統合により野津原中学校区は、1小学校・1中学校となることから、その特性を生かした連携型小中一貫教育を推進するなど、子どもたちの健やかな成長を支える豊かな教育環境を創造するような実施計画を策定してほしい。
- 実施計画策定後は、関係者に説明をするとともに、周知に努めてほしい。
- 統合に向けた取り組みに関しては、引き続き保護者や地域住民、学校関係者等の意見を聞きながら丁寧に協議を進めてほしい。  
( 新たな学校名、校章、校歌についても協議してほしい。 )
- 統合により校区が広がることから、学校と地域とのかかわりについては、関係者等の意見を聞きながら協議を進めてほしい。
- 統合先となる野津原東部小学校の環境整備に取り組んでほしい。
- 統合となる野津原中部地区、野津原西部地区については、統合後の施設の有効活用のあり方に関して、当該校区住民との協議の場を設けるとともに、関係部局とも連携しながら、十分に検討してほしい。
- 野津原中学校区の実情に即した新たな教育環境を創造するため、今後、小学校又は中学校の建替えの時期には、施設一体型を含めた小中一貫教育の実施について検討してほしい。

碩田中学校区  
適正配置実施計画【基本方針】  
に関する

はてなにお答えします



大分市教育委員会では、平成 26 年 2 月に「碩田中学校区適正配置実施計画（基本方針）」を決定しました。この基本方針に基づき、荷揚町、中島、住吉の 3 小学校統合を機に、碩田中学校と住吉小学校の校地を活用し、本市初となる「施設一体型小中一貫教育校」を創設します。現在、平成 29 年 4 月開校に向けて、地域住民の方々への説明会開催や新校舎設計などの準備を進めているところです。

このパンフレットは、基本方針の内容に関して、校区の住民の方々からご質問をいただいていることについてお答えするため、大分市教育委員会教育企画課において作成したものです。

大分市教育委員会



# Q1

## なぜ碩田と住吉なの？



碩田中学校区に高さ1mの津波が到達する時間は、地震発生後1時間27分ほどと想定されています。さらに最大4～5mの津波が襲ってくるまで1時間40分程度と予想されています。津波は海岸に到達した後、陸上では10秒で100mを遡上するといわれています。4mの津波が海岸に到達すると、概ね海拔2～3mに位置する碩田中学校区の多くが、わずか3～4分ほどで波に飲まれてしまう恐れがあります。

一方、大分県の被害想定では、早期避難率が高く、避難の呼びかけが効果的に行われた場合は、著しく人的被害が軽減されることが示されています。まずは、各校区の自主防災組織や地域住民の皆さんが「自分の命は自分で守る」といった意識を高め「まずは逃げる」という行動をとることが大切です。地域とのかかわり合いを深めながら、碩田中学校区全体で防災対応能力の向上を目指しましょう。

### 南海トラフ地震が発生したら

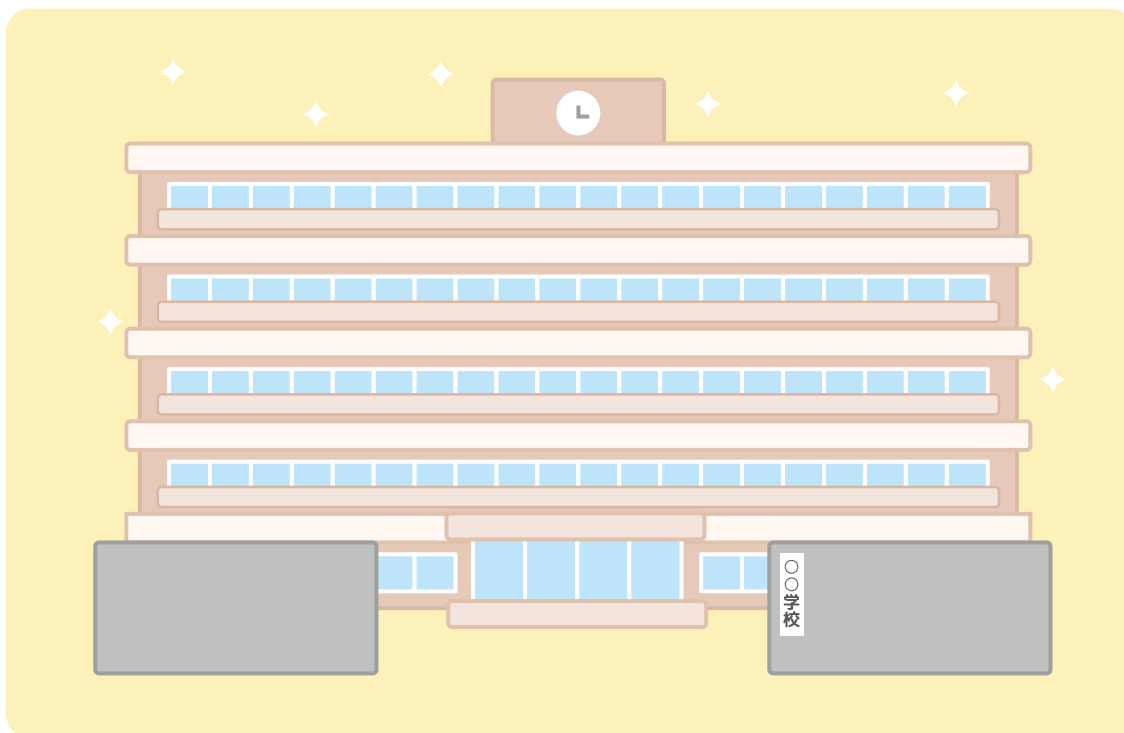
- ①最大震度 6弱
- ②津波の最大高 4.3メートル
- ③1メートル津波到達時間 約1時間27分
- ④津波の陸上での速度 秒速約10メートル  
※海上ではジェット機並み(秒速約220メートル)
- ⑤特にオフィスビルやマンションなど高層建築物が多い内陸部では、津波が高層建築物にさえぎられた場合、その周辺の水位が高くなることや大量の浮遊物を伴うことも想定しておく必要があります。

## もし、逃げ遅れたらどうすればいいの



津波警報等が発表された場合、まずは、浸水想定区域外の高台を目指し、避難することが重要となりますが、高台までの避難が困難な場合や逃げ遅れた場合は、津波避難ビルなどに避難することになります。

今回の3小学校の統合を機に、小・中学校の新校舎を一体的に整備することにより、広くて、頑丈な5階建て以上の高い校舎を建設し、小・中学生や地域住民が逃げ遅れた場合に安全に避難できる津波避難ビルに指定します。



- ①津波到達までに安全に避難できる訓練
- ②広い敷地に小中学校の校舎を一体整備
- ③広くて、頑丈な、5階建て以上の校舎
- ④小、中学生や地域住民の安全を確保

# 広い敷地を確保するには



お答え  
します

広くて頑丈な校舎を建設し、小学生だけでなく中学生や地域住民が、安全に避難できる校舎を建設するには広い敷地が必要です。3小学校のうち、荷揚町小学校と住吉小学校の校舎は築後55年以上経過しており、早急に建て替えが必要です。中島小学校や碩田中学校の校舎も築後40年以上経過しています。小学生だけでなく、中学生や地域住民の生命の安全を最優先に、37,000㎡の広い敷地を活用し、中学校の校舎も建て替えて小学校と一体的に整備します。

## 4校の敷地面積比較

学校名	敷地面積
荷揚町小学校	7,375㎡
中島小学校	11,862㎡
住吉小学校	15,386㎡
碩田中学校	21,913㎡

碩田中学校地と住吉小学校地とを一体的に活用することで、合計約37,000㎡の広い敷地の確保が可能となります。



- ①多様な教育活動を実践できる施設・設備を整備します。
- ②小中学校の児童生徒や教職員が日常的に交流しやすく、安全で快適な環境を創造します。
- ③児童生徒が学校内で地域住民とも交流を深めることができるスペースを確保します。
- ④児童生徒や地域住民が利用しやすいよう、バリアフリーをはじめとしたユニバーサルデザインに配慮します。
- ⑤新設校の施設に防災倉庫を設け、食糧、飲料水、生活必需品等を備蓄します。

# 通学距離



お答え  
します

どの候補地にしても通学の最長距離は2km以上となります。また、その差は大きなものではありません。

通学距離の基準は、「小学校では概ね4km以内、中学校で概ね6km以内」となっています。市内中心部で本校区近隣の他の校区と比較しても、特に問題になるとは考えていません。

## 3候補地の最長通学距離の比較

### 荷揚町小学校地に新設した場合

	荷揚町小	中島小	住吉小
最長通学距離	1.1km	1.8km	2.4km

### 中島小学校地に新設した場合

	荷揚町小	中島小	住吉小
最長通学距離	1.5km	1.5km	2.0km

### 碩田中学校地に新設した場合

	荷揚町小	中島小	住吉小
最長通学距離	2.2km	1.8km	1.3km

## 近隣の小学校の最長通学距離

学校名	距離
金池小学校	約2.1km
春日町小学校	約2.0km
大道小学校	約1.5km
長浜小学校	約0.9km



Q2

# いつできるの？

新設校の開設は  
平成29年4月だよ

4歳になった  
私たちの子どもが  
入学するときね

市教委の案に  
納得いかない人たちも  
いるようだね

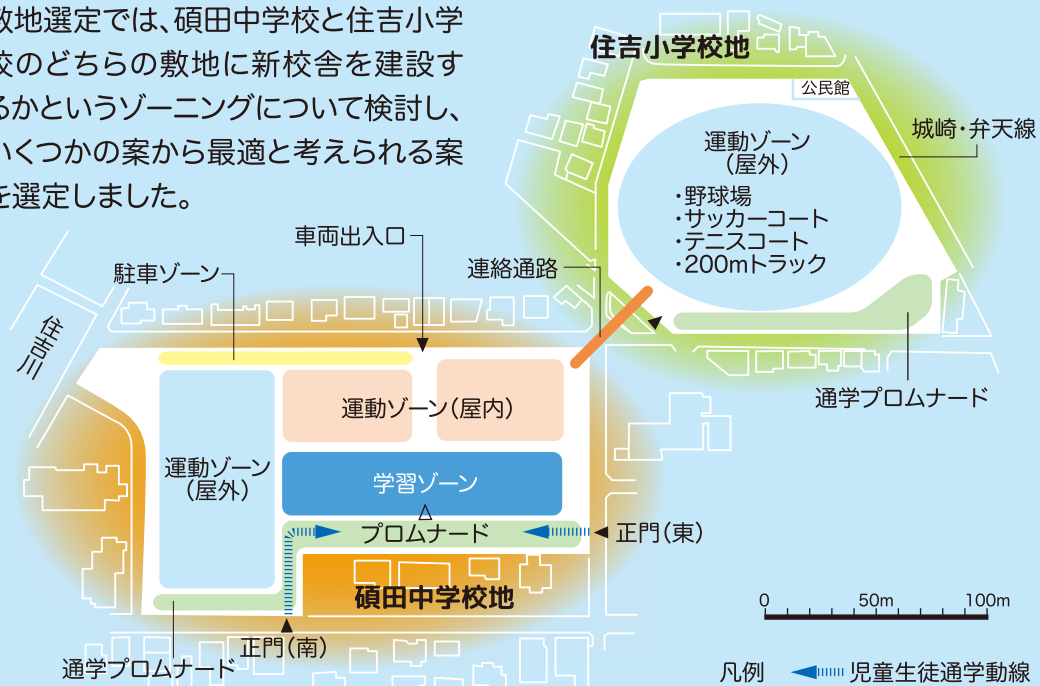
ていねいに  
説明して欲しいわ



お答え  
します

校区の住民の方々からご理解をいただけるよう、丁寧な説明を行いながら、平成29年4月開校に向け、計画的に準備を進めます。平成26年8月下旬には、校舎の基本設計を完了する予定です。平成26年度中には、実施設計を終え、平成27年度から、校舎建設工事が始まる予定です。今後、基本設計の完成までに、保護者や地域住民の代表の方々と、校舎建設についての意見交換の場を設ける予定です。

敷地選定では、碩田中学校と住吉小学校のどちらの敷地に新校舎を建設するかというゾーニングについて検討し、いくつかの案から最適と考えられる案を選定しました。



Q3

# 小中一貫教育って？

9年制の学校で  
小6の卒業式が  
ないってほんと？

運動会も小中一緒だと  
我が子の出番が  
少なくなるかも…

成果があがって  
いるそうよ

連携型より一体型  
の方がいいのかな



お答え  
します

小中学校の児童生徒や教職員が、日常的に交流できる環境を整備し、小学校と中学校のそれぞれのよさを生かしながら、9年間を見通し、生きる力を効果的にはぐくむ教育を実践します。3小学校のこれまでの歴史を引き継ぎながら、大分市の小中学校教育の先導的な役割を担うリーディングスクールを創設します。

- ①大分市では、平成19年度に併設型の小中一貫教育校賀来小中学校を開校しました。その後、連携型小中一貫教育のモデル校区を計画的に拡大し、平成23年度からは市内全域で小中一貫教育を推進しています。
- ②碩田中学校区においても、学習や生活のきまりを統一したり、4校合同の公開授業研究会を開催しています。
- ③小中一貫教育導入以来、大分市の学力・体力は向上しており、心育での面でも、大きな効果が表れています。
- ④いわゆる「中1ギャップ」の改善などの成果が見られます。
- ⑤現状の碩田中学校区では、児童生徒が交流活動を行う場合や、中学校の先生が小学校で授業したり、小学校の先生が中学校でチームティーチング(協同授業)を行ったりする場合に、移動時間を含め3時間の授業時間を費やすことになり、時間や労力のロスが生じています。また、安全確保の問題もあります。これらの問題は、隣接する2つの校地を一体的に活用し、施設一体型の校舎を整備することで解消されると考えます。



碩田中学校区(荷揚町小学校・中島小学校・住吉小学校・碩田中学校)  
施設一体型小中一貫教育校創設に関するご意見・ご質問は下記の窓口まで

## 大分市教育委員会教育企画課

大分市荷揚町2-31

☎097-537-5903

平成26年7月11日発行